

農業技術センターだより

1999.4
No.54



現在の農業技術センター

西条町時代の農業試験場
(昭和31年第1回農業祭の様子)

試験研究100年目を迎えて

明治33年、広島市国泰寺に広島県立農事試験場が設立されて以来、明治43年には賀茂郡西条町へ、昭和44年には賀茂郡八本松町へと移転した。

平成3年に農業試験場から発展的に改組されて、アグリプラザとしての役割を持つ農業技術センターが発足し、技術開発と研修の場として今日を迎えている。

その間、戦前、戦後を通して食糧増産のための研究が推進され、現在では水稻の単収は500kgを越えるまでになり、労働時間も10アール当たり57時間に短縮された。また、野菜、花、果樹、工芸作物、土壌肥料、病害虫などの各分野でも鋭意研究と技術革新を積み重ね成果を上げてきた。

しかし、昭和45年から米が過剰基調となり生産調整が開始され、その規模が拡大されるとともに、農業構造も変化し始め、農業者の高齢化や新規就農者の激減など生産の担い手が脆弱化し、本県の農業生

産は危機的状況を迎えている。

折しも、現在、国会で審議中の新しい農業基本法では農業・農村が生産の場であることに加えて自然環境保全機能を含めた多面的機能の発揮などが盛り込まれ21世紀の農業・農村への新たな視点も追加されようとしている。

このように、大きく農業・農村の情勢が変化する中で、本年は、当センターが幾多の試練を乗り越えて100周年という記念すべき大きな節目を迎え、歴史と伝統の重みを実感している。これを機に、研究機関としては、地域の特性を活かせる大胆な発想と切り口で研究に取り組み、その成果が確実に現場へ定着するよう努めていきたい。このためには、市町村、農業団体、普及機関等の協力が不可欠と考えているので、これまで以上の御支援、御協力をお願いします。

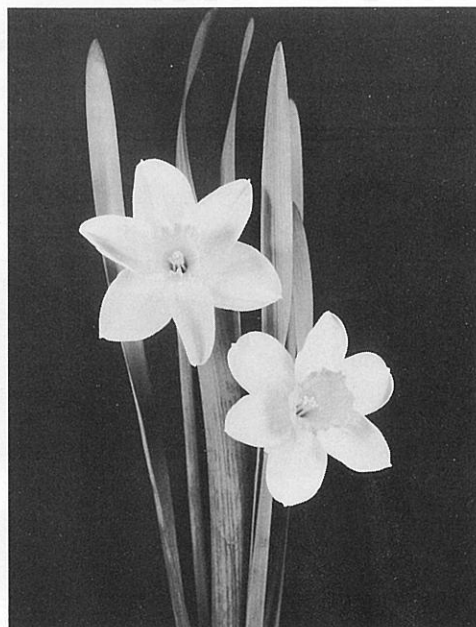
(農業技術センター所長 森島 正幸)

促成栽培に適したスイセンの新品種育成

市場出荷されているスイセンの品種は、「フォーチュン」と他1, 2品種に限られており、開花のより早い正月出荷用品種が求められております。しかし、スイセンは球根の増殖率が非常に低く新品種育成に長期間かかること。また、切り花出荷後の下球を再利用できることなどのため、現在も古い品種が継続して栽培されています。

このたび、品種間交配実生の中から選抜した球根を組織培養により大量増殖して、増殖球を用いて栽培試験を行い促成栽培に適した新品種を短期間で育成しました。

- ◎育成品種は大杯ズイセンで、花卉は「フォーチュン」と同じ明黄ですが、副冠（カップ）の色が鮮橙色で、縁部のちぢれが少ないのが特徴です。
- ◎促成栽培は、8月中旬から球根の冷蔵処理を行い10月中旬にビニールハウス内に植え付けると「フォーチュン」に比べて10～20日間早く、年末から



スイセンの新品種

1月下旬に咲かせることができます。

(生物工学研究所育種研究室)

ミカンキイロアザミウマの越冬生態

広島県でのミカンキイロアザミウマは1993年6月に発生が確認され、その後38市町村に分布を拡大し、キク、バラ、ピーマンなどの花卉や果実に食害傷による被害をだしています。

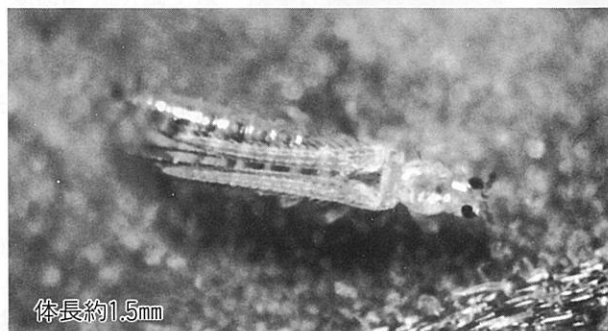
本種のキク圃場における越冬生態は、雨よけハウスと露地のキク冬至芽上で、成虫、幼虫など発育ステージは様々です。

冬至芽上における幼虫数は、雨よけハウス内の1～3月の間はほぼ横ばいですが、4月上旬には卵から孵化し急増します。しかし、露地ギクでは少し遅れて4月中旬になります。

また、春季における発生源の主体は、冬季に冬至芽上に産み付けられた卵と考えられます。

このため、未収穫花や2番花などが遅くまであった圃場の冬至芽を挿穂に使う場合は、孵化幼虫の発生に注意してください。

(環境研究部)



体長約1.5mm

ミカンキイロアザミウマの雌成虫



雨よけ栽培のキク冬至芽での越冬

おまたせしました！ ホームページ開設

最近の情報機器の発達はめざましく、とりわけパソコンの普及とインターネットによる情報提供が急速に進む中、当県では農業情報システムの整備をすすめており、農業改良普及センターでもインターネットが利用できるようになりました。

当センターでも県内の農業関係機関や農家の方に研究成果情報や気象情報などを幅広く利用していただくため、このほどホームページを開設しました。

これは、パソコンを設置してインターネットに接続できる方であれば、どなたでも情報が簡単に取り出せるようになっています。

是非、農家の方にもパソコンで情報収集に利用し、営農に役立ててください。

このホームページの概要は次のとおりです。

1. 主な情報の内容

(1) 農業技術センターの概要紹介

(2) 研究成果の情報

昭和63年以降の研究成果が検索できるほか、発表会の要旨などがみられます。

(3) 気象予報

広島地方気象台から発表される最新の天気予報、週間予報及び当センターで解説を加えた各種気象情報がみられます。

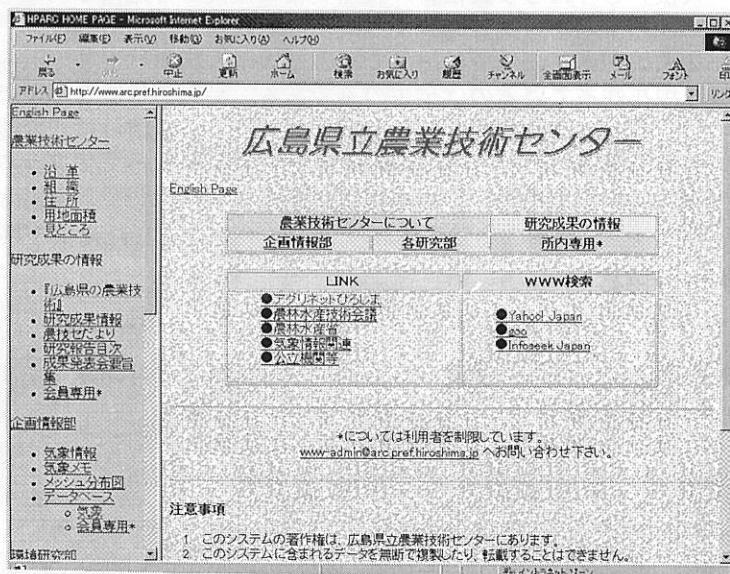
(4) 気象データ

県内にあるすべてのアメダス観測所の最新と過去のデータが検索できます。

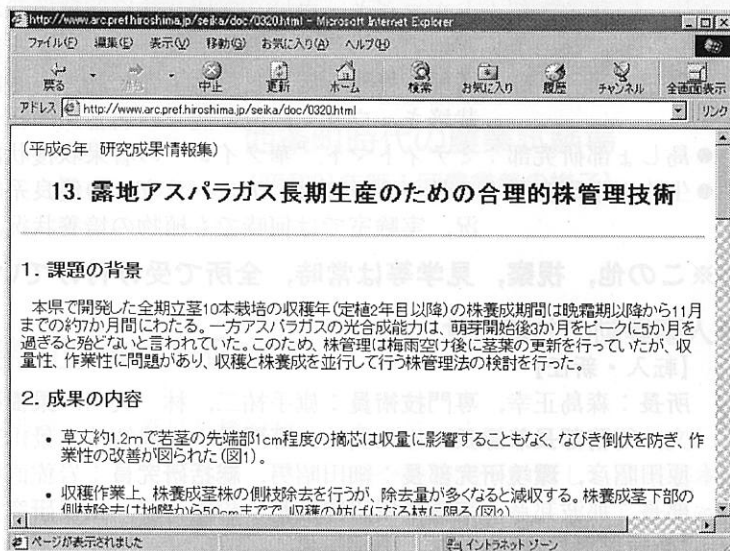
2. ホームページのアドレス

<http://www.arc.pref.hiroshima.jp/>

(企画情報部)



トップページ



観測所 67376: 東広島 *** 気象表 *** (1999年 2月1半旬～ 2月6半旬)

月 半旬	<最高気温>		<最低気温>		<平均気温>		<降水量>		<日照時間>		<本
	本年	平年差	本年	平年差	本年	平年差	本年	平年差	本年	平年差	
2 1	4.4	-1.5	-5.0	-1.8	-0.3	-1.5	6	+0.0	20.7	+1.7	
2 2	10.5	+3.3	-3.2	+0.1	2.7	+0.8	0	-7.5	36.8	+14.2	
2 3	5.7	-2.9	-2.7	-0.3	1.1	-2.0	16	+7.8	26.7	+5.4	
2 4	8.9	+1.0	-2.1	-0.4	3.2	+0.2	5	-13.3	28.9	+10.0	
2 5	8.4	+0.6	-2.5	-1.0	2.6	-0.5	13	-2.7	26.6	+6.9	
2 6	10.2	+1.9	-1.1	+1.1	4.8	+1.7	9	+1.0	15.1	+2.4	
平均	8.0	+0.4	-2.8	-0.4	2.3	-0.2	8.2	-2.4	25.8	+6.8	
2月 日											
1	9.7		-0.8		4.4		0		0.2		
2	7.8		-1.5		2.3		1		2.8		
3	-1.9		-5.6		-3.2		5		2.8		
4	2.6		-10.6		-4.2		0		8.9		
5	3.9		-6.6		-0.9		0		6.0		
6	7.4		-4.6		0.5		0		7.0		
7	10.6		-4.4		2.2		0		0.1		

成果情報(上)と気象データ(下)の表示例

ひろしまの在来作物(14)——浅漬けで抜群の味「うぐろ大根」——

うぐろ大根の「うぐろ」とは、広島の方言で「モグラ」を意味する。大根の形が元から先まで同一の太さで長さが短く、モグラに似ていることからこの名がついた。この品種は広島の在来である「三月子大根」と「ねじま大根」の自然交雑の後代から選抜されたものといわれている。栽培の歴史は古く、既に江戸末期から観音地区や三篠地区で栽培されていた。うぐろ大根には、昭和15年頃には早生と晩生の2系統があり、早生は白茎で水入り大根、晩生は青茎で沢庵用うぐろ大根と呼ばれていた。

現在残っているのは早生のみである。品種の特徴としては、葉は薊葉で葉柄の毛茸は少なく細くて白い。根長は20cm程度と短いが締まりは良く、浅漬けにした場合の品質は抜群である。ウイルス病に弱い。早播する場合は初期に寒冷紗被覆等を行ってアブラムシの加害を防ぐ必要がある。播種適期は高冷地で8月上中旬、平坦地で8月下旬～9月上旬である。
(農業ジーンバンク：船越 建明)

(財)広島県農業ジーンバンクが収集した貴重な県内遺伝資源(種子)をシリーズで紹介します

◆刊行物案内

農業技術センター研究成果発表会要旨集 (3月)

◆会議・研究会・行事 (日時等については変更になることがありますので予めお確かめください)

- 平成11年度広島県新規採用職員研修 (県公務員研修所) (4月16日)
- 平成11年度水稲、除草剤等展示ほ設計会議 (4月：日時未定)
- 平成11年度試験研究設計検討会 (4月13～15日)

◆農業技術センター 4月～6月見どころ案内

- 作物研究部：長期落水管理散播水稲、品種比較水稲の初期生育、麦類の品種比較、地被植物の新造成畦畔への新規植え付け、景観形成植物の開花状況。
- 園芸研究部：トルコギキョウは2度切り栽培と移植栽培、デルフィニウムは品種比較状況。露地アスパラガスの新茎葉管理法による省力化と乗用収穫作業車。
- 環境研究部：各種有機物を施用した水稲の初期生育状況(6月)、養液土耕施肥によるトマト、ハウス栽培キュウリで環境に優しい病害虫の総合防除状況。
- 鳥しょ部研究部：ミディトマト“華クイン”の着果収穫状況(7月末まで収穫)。
- 生物学研究所：5月～6月には、アスパラガスの優良系統「Y6」の初期萌芽、育成中の水稲手植え状況、実験室では何時でも植物の培養状況。

※その他、視察、見学等は常時、全所で受け付けています。どうぞ見学においでください。

◆人事異動のお知らせ

【転入・新任】

所長：森島正幸、専門技術員：旗手祐二、林 英明、果樹研究所長：後 俊孝、果樹研究所次長：景山尚文、総務部長兼課長：片山賢治、専門員：小池智枝、景山美津子、主任主事：竹内伸一、企画情報部長：原田昭彦、環境研究部長：細田昭男、総括研究員：岩佐直明、高冷地研究部長：古土井悠、鳥しょ部研究部長：那波邦彦、落葉果樹研究室長：松本 要、主任研究員：上原由子、研究員：相生 久、浅井三礼。

【新規採用】 建本 聡、山根崇嘉。

【転出】 今中義彦、中山信弘、今井俊治、黒川壽子、森 俊彰。

【退職】 半川義行(所長)、小笠原静彦(果樹研究所長)、新久昭憲(総務部長)、中沢征三郎(環境研究部長)、中藪正之(高冷地研究部長)、舛田静夜(総務課専門員)。

発行 広島県立農業技術センター

(企画情報部)

☎739-0151 東広島市八本松町原6869

TEL 0824-29-0521 FAX 29-0551

編集だより

新研究体制が決まり、新年度のスタートです。食料・農業・農村基本法の制定をにらみながら技術開発に取り組みます。皆様のご意見、ご要望をお待ちしています。

組織と所在地

農業技術センター 本 所	(総務部、専技室、企画情報部、作物研究部、園芸研究部、環境研究部、生物学研究所細胞工学研究室、同育種研究室)			
〃	高冷地研究部	☎731-2104	山県郡大朝町大朝4413	TEL 0826-82-2047 FAX 82-3604
〃	鳥しょ部研究部	☎722-2102	因島市重井町宮ノ上	TEL 08452-5-0004 FAX 5-0738
〃	果樹研究所	☎729-2402	豊田郡安芸津町三津2835	TEL 0846-45-1225 FAX 45-1227
			(管理課、常緑果樹研究室、落葉果樹研究室)	
〃	〃 柑橘研究室	☎729-0321	三原市木原町643	TEL 0848-68-0131 FAX 68-0181